



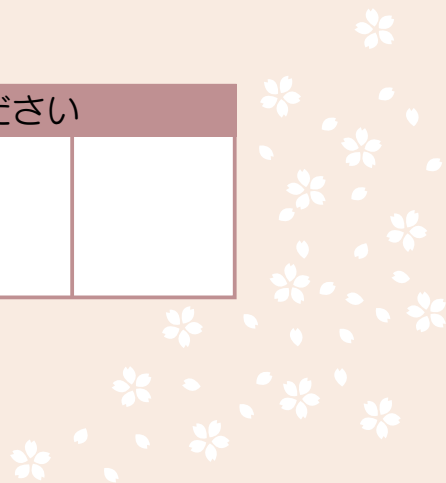
中学校 社会科のしおり

2008年 **4** 月号

社会科の先生方でご覧ください

--	--	--	--	--

帝国書院



表紙写真解説

鉄鉱石の町ニューマン

(写真 帝国書院)

オーストラリア北西部の乾燥地域に位置するニューマンは、鉄鉱石で有名な鉱山町である。町の歴史は、この西側約5kmの山で1957年に鉄鉱石が発見されたことに始まる。その山はクジラの背中に似ていたことから、マウントホエールバックと名づけられた。町は1967～69年にかけて建設が進められた新しいもので、その後も宅地のブロックごとに拡大が進んでいる。写真手前は市街地南西部の住宅地で、役所・警察・病院など公共機関の施設は写真左側（北側）のブロックに集中している。写真奥の大きな建物群は、鉱山に関する工場地区である。手前の住宅はすべて平屋で、しかも同時期に建設されたため、その形や色などが統一されている。緩やかな屋根には、北側、すなわち太陽

の方に向けてソーラー温水器の設備が施されている。町の年間平均降水量は310mmと少なく、日照時間が多いためである。また、住宅地に潤いと日陰を提供しているユーカリなどの樹木は、すべて鉱山会社の手によって移植された。約4500人の生活を支える水は、町の北側約3kmに掘られた人工の池から供給される。そのほか、一般に乾燥地域の町では、屋根に降った雨水も利用することが多い。電気は、郊外の発電所から、町ぐるみの「自家発電」によってまかなわれている。

写真左手中央に連なるなだらかな山は、鉱山開発時に掘り出された鉄鉱石残滓物を積み上げた人工のもので、その高さは20～30mにも及び、町の一部を取り囲んでいる。鉱山で採掘された鉄鉱石は、北に426km離れた海岸沿いのポートヘッドランドまで貨車で運ばれ、中国・日本をはじめとする海外に輸出される。

(立命館大学教授 片平博文)